



生徒とともに成長していく

浦和区 常盤中学校 教諭 三谷 友里

浦和区 常盤中学校 教諭 池田 和泉

「どの生徒にも英語を好きにさせること」これが英語教師として私の最大の目標である。

この目標を達成するために、研修や参考書で勉強をしている。しかし、これが実際の現場が単純につながるものではない。予想外の生徒の反応に一喜一憂しながら授業作りに奮闘する日々である。そのような中で、生徒の一生懸命に取り組む姿や「できた！」と喜ぶ表情を見ることができた時、何にも代え難い幸せな気分になり、明日も頑張ろうというエネルギーがわいてくる。教員という職業を真剣に楽しむ瞬間である。結果はすぐには見えないことから、教育はとても難しいと思う。自分がやっていることが本当に正しいことなのか、不安になることもある。それでも私は目の前の生徒に幸せになってもらいたい。その信念を持って日々生徒と向き合いたいと思う。

先日、部活を引退した3年生から手紙をもらった。今までの思い出の締めくくりに、「先生のお陰です。ただお礼が言いたくて手紙を書きました。」と書いてあった。その手紙を読みながら、走馬灯のように色々な事を思い出した。決して全てが楽しい事ばかりでなかったけれど、全てが良い思い出となり、とても温かな気持ちになった。この先、こんな手紙をあと何通手にすることが出来るのだろうか。いや、『たくさん手に出来るような教員でありたい』と心から思う。

これから、どんな出会いがあり、どんな出来事があるのか楽しみである。 (三谷)

『初めてづくし』の毎日が10カ月経った。振り返れば様々なことがあったが、とても短かったように思う。特に4月はめまぐるしく過ぎ、何事にも余裕がなく、初任者指導の先生が不在の日は、授業がとても不安だった。しかし、昨年までと変わったことがある。「生徒のために」と思う気持ちがより強くなったことである。そのきっかけを2つ挙げてみる。

①修学旅行の担当として、下見に行かせていただいた。修学旅行という大きな行事を作り上げる過程を勉強したいという思いからである。同行して下さった先生は経験豊富で、道も乗り換えも文化的背景も御存知だった。私はほとんど知識が無く、ガイドブックが手放せない状態。無知ゆえに、新発見が多かった。なるほどと思う私の横で、その先生は私と同じくらい感動していた。そしてすぐに「この感動をどう生徒に伝えるか」と考えていた。『思い』を教わった。学生時代からの恩師にももらった「真に敬愛される教師を目指せ」という言葉を思い出した。

②授業づくりの方法を変えてみた。しばらくすると生徒の反応が変わり、まっすぐ廊下を歩けないほど多くの生徒に話しかけられるようになった。一学期に様子が心配だった生徒から「授業が楽しい」と言われた。とても嬉しかった。不安だらけの授業に、少しだけ自信を持つことができた。

今後も日々の授業を大切に、目の前にいる生徒のためにできることを精一杯取り組もうと思う。 (池田)